

仮想大学 基礎データと アセスメントポリシー

「その入試、一緒に検証してみませんか？」ワークショップ配布資料
京都高大接続地域ネットワーク(KARN)第2回研修 / 2026年8月27日

この資料の使い方

あなたは本日、受付時に割り当てられた大学の**職員**として参加します。グループ(5名前後)はその大学の**教学マネジメント委員会**で、着席時に引いたロールカードの役割(学長補佐/入試課/教務・初年次教育/IR室/広報・高大接続)を担ってください。

本資料は各大学2ページ構成ですー **1ページ目: 大学基礎データ**(認証評価・大学ポートレートで用いる数値情報)、**2ページ目: 求める学生像・アセスメントポリシー・学内の声**。まず基礎データで「自分の大学」を把握し、ワークショップ本編ではIR室提出の**ダッシュボード(別紙A3)**と突き合わせてポリシーの検証と改善提案を行います。

大学	タイプ	在籍学生数 / 入学定員	担当グループ
A. 洛都大学	大規模私立総合(文系中心・10学部)・都市部	19,020名 / 4,600名	G1・G2
B. 桂川工科大学	中規模理工系単科(工学部4学科)・郊外	3,350名 / 850名	G3・G4
C. 鴨川医療大学	小規模医療系単科(4学科)・市街地	905名 / 220名	G5・G6
D. 貴船大学	小規模文系(3学科)・地方・ユニバーサル型	870名 / 300名	G7・G8
E. 木津川大学	中規模複合(文理4学部)・郊外2キャンパス	4,880名 / 1,200名	G9・G10

※参加者数により G11(→A大学)・G12(→E大学)を追加します。

※本資料に登場する大学・データ・人物の発言はすべて研修用に作成した**架空**のものです(実在の大学の規模感・構成を参考にモデル化していますが、特定の大学ではありません)。

※「偏差値帯」は民間模試による目安、「私大平均」等の比較値は公表統計に基づく参考値という設定です。

洛都大学

らくと

1/2 大学基礎データ

都市部に立地する10学部の実験大学。ブランド力があり定員は充足しているが、年内入試比率が5年で38%→54%に上昇し、学内では「学力担保」への不安の声が根強い。

沿革・設置形態

設置者・開学	学校法人(1922年専門学校として創立、1949年大学設置)
立地・キャンパス	京都市中心部メインキャンパス(私鉄駅徒歩5分)+郊外サブキャンパス(理工・健康スポーツ)
認証評価	2023年度 大学基準協会「適合」(提言なし)

学部・学科構成と入学定員(2026年度)

学部	入学定員	偏差値帯(目安)	学部	入学定員	偏差値帯(目安)
文学部	560	52.5	国際学部	420	55
法学部	540	57.5	心理学部	280	57.5
経済学部	660	55	情報学部	380	55
経営学部	620	55	理工学部	420	50
社会学部	480	52.5	健康スポーツ学部	240	50

合計 入学定員 4,600名

学生数・教育条件

収容定員	18,400名	初年度納付金	文系 126万円/理系 168万円
在籍学生数	19,020名(収容定員充足率 103.4%)	JASSO奨学金受給率	38%
専任教員数	520名(ST比 36.6)	留学生数	420名(主に国際学部)

入学者選抜(2026年度)

志願者(延べ)	合格者(延べ)	入学者	入学定員充足率	一般選抜 志願倍率	入試区分構成
44,600	13,000	4,610	100.2%	6.9倍	総合型 19%/指定校 26%/公募 9%/一般 46%

年内入試(総合型+指定校+公募)比率は5年で 38%→54%。志願者総数は5年で約15%減(52,300→44,600)。

教育成果(2025年度実績)

就職率(就職希望者比)	大学院等進学率	標準修業年限内卒業率	退学率(年間・全学年)	初年次退学率(2025年度入学者)
98.2%	3.1%	88.4%	1.2%	1.8%

出口指標は安定。英語は入学時プレイスメントテストによる習熟度別クラス編成を実施(下位クラスが年々増加中 — 詳細はダッシュボード)。

求める学生像 アドミッション・ポリシー(全学)より抜粋

1. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力(特に英語・国語)を身につけている人
2. 自ら課題を見出し、主体的に学び続ける意欲を持つ人
3. 多様な背景を持つ人々と協働し、社会に貢献しようとする姿勢を持つ人

本学を志願する者は、学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を入学時まで身につけていることが望ましい。上記の入学者を選抜するため、以下の方針により多様な選抜を実施する。

入試区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜	個別学力検査	個別学力検査(記述式)	調査書により総合的に評価
共通テスト利用	大学入学共通テスト	大学入学共通テスト	調査書により総合的に評価
公募制推薦	基礎学力検査	小論文	面接・調査書により総合的に評価
指定校推薦	調査書(評定平均)	面接	面接・推薦書により総合的に評価
総合型選抜	調査書	志望理由書・課題レポート	面接・活動報告書

アセスメント・プラン 学修成果の評価方針(抜粋)

本学は、3つのポリシーに掲げる資質・能力の修得状況を、**機関(大学全体)・教育課程(学部)・科目**の3レベルにおいて、**入学前・入学時／在学中／卒業時・卒業後**の各時点で測定・評価し、その結果を教育改善に活用する。

レベル	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
機関	各種入学選抜、新入生アンケート	学修行動調査、GPA分布、退学率・休学率	卒業率、就職率、卒業時アンケート、卒業生アンケート
教育課程	各種入学選抜、英語プレイスメントテスト	GPA、修得単位数、進級率、成績分布	学位授与数、卒業時アンケート
科目	英語プレイスメントテスト(習熟度別クラス編成)	成績評価、授業アンケート	—

※求める学生像に掲げた「**主体的に学び続ける意欲**」「**多様な人々との協働**」については、入学選抜において多面的・総合的に評価するものとし、**入学後の測定指標は別途定める**。

学内の声 教学マネジメント委員会での発言メモ

英語教育センター長 「習熟度別の下位クラスが年々増えて、非常勤の手当てが追いつかない。推薦で入る学生の英語力は明らかに下がっている」

入試部長 「高校側は年内に進路を決めたい。年内入試を絞れば併願先に流れ、定員管理はむしろ難しくなる。歩留まりの読める年内枠は経営上も合理的だ」

若手教員(社会学部) 「『主体性を評価して選抜した』と言うが、その学生たちが本当に主体的なのか、入学後に誰か測っているんでしょうか」

桂川工科大学

かつらがわこうか

1/2 大学基礎データ

工学部だけの単科大学。就職実績を強みに志願者を保ってきたが、併願校化が進み歩留まりが悪化。定員確保のため指定校推薦枠を拡大した結果、数学の基礎学力のばらつきが顕在化している。

沿革・設置形態

設置者・開学	学校法人(1963年開学。高度経済成長期の技術者養成を目的に設立)
立地・キャンパス	京都府南部・単一キャンパス(JR駅からバス10分)。実習棟・工作センターを近年更新
認証評価	2022年度 日本高等教育評価機構「適合」。改善を要する点として「入学者の学力多様化への組織的対応」の指摘あり

学部・学科構成と入学定員(2026年度)

学部・学科	入学定員	偏差値帯(目安)	備考
工学部 機械工学科	200	45	自動車・機械系企業への就職に強み
工学部 電気電子工学科	200	45	電気主任技術者の認定校
工学部 情報工学科	280	50	志願者増。学内で最も人気
工学部 建築学科	170	47.5	一級建築士受験資格対応

合計 入学定員 850名

学生数・教育条件

収容定員	3,400名	初年度納付金	166万円
在籍学生数	3,350名(収容定員充足率 98.5%、うち留年生 180名)	JASSO奨学金受給率	45%
専任教員数	138名(ST比 24.3)	大学院(修士)	定員60名・充足率65%

入学者選抜(2026年度)

志願者(延べ)	合格者(延べ)	入学者	入学定員充足率	志願倍率	入試区分構成
2,120	1,560	816	96.0%	2.5倍	総合型 10%/指定校 34%/公募 16%/一般 40%

2023年度から定員割れが常態化(充足率 100.9%→96.0%)。歩留まりの読める指定校推薦を22%→34%に拡大して入学者数を維持してきた。指定校の選抜は調査書・面接のみ(学力検査なし)。

教育成果(2025年度実績)

就職率(就職希望者比)	大学院進学率	標準修業年限内卒業率	退学率(年間・全学年)	初年次退学率(2025年度入学者)
99.1%	12.4%	78.5%	2.1%	4.4%

実就職率は全国の工科大で上位の常連(出口は強い)。一方、標準年限内卒業率は78.5%と低く、留年の主因は初年次の数学系必修科目。1年次「微分積分学I」の再履修者は年々増加。

求める学生像 アドミッション・ポリシーより抜粋

- 工学の学修の基盤となる数学・理科の基礎学力を身につけている人
- ものづくりや情報技術への強い興味を持ち、粘り強く課題に取り組める人
- 技術者として社会に貢献する意志を持つ人

工学の学修に必要な数学・理科の基礎学力は、入学者選抜において確認する。上記の入学者を選抜するため、以下の方針により多様な選抜を実施する。

入試区分	入学者選抜の趣旨と評価方法	数学・理科の学力確認	入学者に占める割合
一般選抜	筆記試験を重視し、知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価する	個別学力検査(数学必須・理科選択)	24%
共通テスト利用	本学が学科ごとに指定する教科・科目の得点により評価する	大学入学共通テスト(数学・理科)	16%
公募制推薦	基礎学力検査と面接により、知識・技能と学ぶ態度を評価する	基礎学力検査(数学)	14%
指定校推薦	学校長の推薦をふまえ、調査書および面接により総合的に評価する	—	34%
総合型選抜	課題レポートと口頭試問により、思考力および学ぶ態度を評価する	口頭試問に含む(基準は定めていない)	12%

アセスメント・ポリシー 学修成果の測定・評価の方針(抜粋)

本学は、3つのポリシーに掲げる資質・能力の修得状況を、**機関・教育課程(学科)・科目**の3レベルにおいて、**入学前・入学時／在学中／卒業時・卒業後**の各時点で測定・評価する。

レベル	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
機関	各種入学者選抜、入学前教育課題(年内入試合格者)	GPA分布、退学率・休学率、学修行動調査	卒業率、就職率、大学院進学率
教育課程	各種入学者選抜、高校理科履修状況調査	GPA、修得単位数、進級率、「微分積分学I」「物理学基礎」の成績	学位授与数、専門分野就職率
科目	数学プレイスメントテスト(基準点40点・習熟度別クラス編成)	成績評価、授業アンケート	—

※入学前教育は年内入試合格者への**受講推奨**とし(通信添削・受講率55%)、**到達基準および効果測定は定めていない**。

学内の声 教学マネジメント委員会での発言メモ

数学担当教授 「微積の再履修者が教室からあふれている。三角関数から怪しい学生もいる。正直、入試で何を確認しているのか分からない」

入試課長 「指定校を絞れば定員割れは確実。高校との関係もあり、いまさら試験を課すとは言いにくい」

キャリアセンター 「『プログラミングをやりたい』と情報系に入ってくるが、数学で心が折れて辞めていく学生が毎年一定数いる」

鴨川医療大学

かもがわいりょう

1/2 大学基礎データ

看護・リハビリ・臨床検査の医療系単科大学。志願倍率・国家試験合格率とも高水準で「出口」は良好。しかし1年次の休学・退学(進路変更)がじわりと増え、実習現場から「ミスマッチ」を指摘する声が上がる。

沿革・設置形態

設置者・開学	学校法人(母体は医療法人グループ。2007年開学 — 医療系大学新設期)
立地・キャンパス	京都市街地・単一キャンパス(グループ基幹病院に隣接。地下鉄駅徒歩8分)
実習体制	基幹病院のほか府内約40の病院・施設と実習協定
認証評価	2021年度 大学基準協会「適合」(提言なし)

学部・学科構成と入学定員(2026年度)

学部・学科	入学定員	偏差値帯(目安)	取得を目指す資格
保健医療学部 看護学科	100	52.5	看護師・保健師(選択制)
保健医療学部 理学療法学科	40	55	理学療法士
保健医療学部 作業療法学科	40	50	作業療法士
保健医療学部 臨床検査学科	40	50	臨床検査技師

合計 入学定員 220名

学生数・教育条件

収容定員	880名	初年度納付金	看護 190万円/リハ・検査 180万円
在籍学生数	905名(収容定員充足率 102.8%)	JASSO奨学金受給率	48%(病院奨学金の利用者も別途2割程度)
専任教員数	92名(ST比 9.8 医療系のため少人数)	早期体験実習	1年次後期に全学科で実施(病院・施設)

入学者選抜(2026年度)

志願者(延べ)	合格者(延べ)	入学者	入学定員充足率	志願倍率	入試区分構成
792	348	226	102.7%	3.6倍	総合型 18%/指定校 12%/公募 18%/一般 52%

志願倍率は4.8倍(2022)→3.6倍(2026)と漸減中だが、選抜機能はまだ働いている。全区分で面接(約15分)を実施。

教育成果(2025年度実績)

就職率(就職希望者比)	国家試験合格率(看護)	同(理学/作業/臨床検査)	標準修業年限内卒業率	初年次退学・休学率(2025年度入学者)
100%	97.2%(全国平均+7pt)	96.8% / 94.1% / 88.5%	89.0%	4.9%

国家試験・就職とも高位安定で「出口」は強い。一方、初年次の退学・休学率は2.2%(2022年度入学者)→4.9%(2025年度入学者)へ上昇。発生は1年次後期(早期体験実習の後)に集中。

求める学生像 アドミッション・ポリシーより抜粋

- 1. 医療の学修に必要な基礎学力(特に理科・英語)を身につけている人
- 2. 医療専門職への明確な志望動機と、職業への適性・倫理観を備えている人
- 3. チーム医療の一員として、他者と誠実にコミュニケーションできる人

上記の入学者を選抜するため、以下の方針により多様な選抜を実施する。全選抜区分において面接(約15分)を課し、志望動機・適性・倫理観・コミュニケーション能力を評価する。

入試区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力	志望動機・適性・倫理観
一般選抜	個別学力検査(英語・数学・理科)	個別学力検査(記述式)	面接
共通テスト利用	大学入学共通テスト	大学入学共通テスト	面接
公募制推薦	基礎学力検査(英語・理科)	小論文	面接
指定校推薦	調査書(評定平均4.0以上)	小論文	面接
総合型選抜	調査書	小論文・課題レポート	面接・志望理由書

アセスメント・プラン 学修成果の評価方針(抜粋)

医療専門職に必要な学力と適性を測定し、国家試験合格と臨床現場で活躍できる人材の育成につなげる。測定・評価は機関・教育課程(学科)・科目の3レベル、入学前・入学時／在学中／卒業時・卒業後の各時点で行う。

レベル	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
機関	各種入学者選抜、面接評価、入学前教育課題、新入生アンケート	退学率・休学率、学修行動調査	卒業率、就職率、卒業生アンケート
教育課程	各種入学者選抜、高校理科履修状況調査	GPA、進級率、「解剖生理学」等の専門基礎科目成績、学年別模試	国家試験合格率・合格者数、就職率
科目	プレイスメントテスト(リメディアル科目の受講勧奨)	成績評価、学外実習評価、授業アンケート	—

※職業適性・倫理観は入学者選抜の面接において評価するものとし、入学後の測定指標は設定していない。

学内の声 教学マネジメント委員会での発言メモ

実習調整担当	「1年後期の早期体験実習のあとに『思っていた仕事と違う』と言い出す学生が、ここ数年明らかに増えた」
入試委員長	「面接15分で適性まで見切れているのか、正直自信がない。だが他に方法があるのか」
解剖生理学担当	「高校で生物を履修していない入学者が3人に1人。毎年同じところであらずく」

貴船大学

きぶね

1/2 大学基礎データ

経営・現代社会・こども教育の3学科からなる地方小規模文系大学。実質的な全入状態で、充足率は5年で92%→74%に低下。初年次退学率は11%に達し、「入学させた学生を支えきれているのか」が最大の経営課題。

沿革・設置形態

設置者・開学	学校法人(1966年設立の女子短期大学を1998年に四年制・共学化)
立地・キャンパス	京都府北部(北近畿エリア)・単一キャンパス(JR駅からスクールバス15分)
定員の変更	2021年度に入学定員を350名→300名に削減済み。さらなる削減を検討中
認証評価	2024年度 日本高等教育評価機構「適合」。改善を要する点として「アセスメントポリシーに基づく測定の実施と活用」の指摘あり
その他	地元自治体による公立化の可能性が地元紙で報道された(法人・自治体とも公式にはコメントせず)

学部・学科構成と入学定員(2026年度)

学部・学科	入学定員	偏差値帯(目安)	備考
総合社会学部 経営学科	150	35	地元企業への就職が中心
総合社会学部 現代社会学科	100	BF	公務員(地方初級)輩出を掲げる
総合社会学部 こども教育学科	50	37	保育士・幼稚園教諭。地元就職率ほぼ100%

合計 入学定員 300名|入学者の85%が地元県および隣接県の出身(地元占有率が高い)

学生数・教育条件

収容定員	1,200名	初年度納付金	128万円(近隣私大より低めに設定)
在籍学生数	870名(収容定員充足率 72.5%)	JASSO奨学金受給率	58%(経済的支援ニーズが高い)
専任教員数	45名(ST比 19.3)	帰属収支	3年連続の支出超過(赤字)

入学者選抜(2026年度)

志願者	合格者	入学者	入学定員充足率	実質倍率	入試区分構成
338	331	223	74.3%	1.02倍	総合型 45%/指定校 28%/公募 15%/一般 12%

不合格者は年間数名(実質全入)。年内入試比率88%・専願中心。オープンキャンパス参加者の出願率は68%と高いが、参加者数自体が5年で半減(640名→310名)。

教育成果(2025年度実績)

就職率(就職希望者比)	同(卒業生比)	標準修業年限内卒業率	退学率(年間・全学年)	初年次退学率(2025年度入学者)
93.5%	78.2%	73.8%	4.2%	11.2%

初年次退学率11.2%は私大平均(2%台)の約5倍で、退学の6割が1年次前期末までに発生。就職率は「希望者比」では9割台だが、進路未決定のまま卒業・中退する層が厚い(卒業生比78.2%)。

求める学生像 アドミッション・ポリシーより抜粋

1. 本学での学びに必要な基礎的な読み書きの力を身につけようと努力できる人
2. 地域社会や子どもへの関心を持ち、学ぶ意欲のある人
3. 自らの将来像を描こうとする意志のある人

上記の入学者を選抜するため、以下の方針により多様な選抜を実施する。

入試区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学ぶ意欲・将来像	入学者に占める割合
一般選抜(前期)	学力検査(2科目)	—	調査書	12%
公募制推薦	調査書	作文	面接	21%
指定校推薦	調査書	—	面接	31%
総合型選抜	調査書	エントリーシート	面談(複数回)	36%

アセスメント・ポリシー 学修成果の測定・評価の方針(抜粋)

本学は、入学時に**基礎学力・学修意欲・キャリア意識**を多面的に測定し、その結果を初年次教育および**個別学修支援計画**に接続する。また**入学前教育により入学までの学びを保障**する。測定・評価は機関・教育課程・科目の3レベルにおいて行い、**各レベルおよび対象時期に応じた評価・測定指標は別途定める**。

レベル	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
機関	各種入学者選抜、入学前教育課題 (通信添削・任意・受講率42%)	退学率・休学率	卒業率、就職率
教育課程	学修行動調査 (2023年度実施を最後に予算都合で休止中)	GPA、修得単位数	学位授与数
科目	日本語リテラシーテスト (基準点45点・結果を各学科に配付)	成績評価	—

※**キャリア意識**の測定ツール、および**個別学修支援計画**の様式・運用は**未整備**(ポリシー上の記載のみ)。認証評価において「アセスメント・ポリシーに基づく測定の実施」について指摘を受けている。

学内の声 教学マネジメント委員会での発言メモ

初年次ゼミ担当 「4月の時点で誰を重点支援すべきか分からないまま走り出し、6月に最初の退学者が出る。毎年同じことの繰り返し」

入試広報課 「オープンキャンパスに来てくれた生徒はかなりの割合で出願してくれる。問題は、そもそも来てくれる高校生が半分に減ったこと」

学長室 「アセスメントポリシーは認証評価に向けて立派に作った。だが、動かす人と予算がついていない。評価機構からも今回、実施状況を指摘された」

木津川大学

きづがわ

1/2 大学基礎データ

経営・国際・理工・健康栄養の4学部を持つ文理混合の複合大学。全学の充足率は97%と一見安定しているが、学部別に見ると景色が一変する。アセスメントは「全学共通」の一本槍で運用してきた。

沿革・設置形態

設置者・開学	学校法人(1965年に経済大学として開学。2004～2016年に学部を増設し現在の4学部体制へ)
立地・キャンパス	京都府南部・2キャンパス(本部: 私鉄駅徒歩15分/理工・健康栄養: バス20分)
認証評価	2021年度 大学基準協会「適合」。付帯意見: 「内部質保証システムの学部レベルへの展開」

学部・学科構成と入学定員(2026年度)

学部	入学定員	偏差値帯(目安)	2026年度 学部別充足率	備考
経営学部	450	45	108.0%	祖業。志願者は堅調
国際学部	250	42.5	72.0%	2016年設置。留学必修を看板に開設
理工学部	350	47.5	90.0%	2004年に工学系短大を改組
健康栄養学部	150	50	102.0%	管理栄養士養成課程。資格人気で安定

合計 入学定員 1,200名

学生数・教育条件

収容定員	4,800名	初年度納付金	文系 130万円/理工 163万円/健康栄養 155万円
在籍学生数	4,880名(収容定員充足率 101.7%)	JASSO奨学金受給率	47%
専任教員数	214名(ST比 22.8)	海外留学派遣数	2019年度 118名 → 2025年度 28名 (協定校プログラムを縮小)

入学者選抜(2026年度)

志願者(延べ)	合格者(延べ)	入学者	入学定員充足率(全学)	志願倍率	入試区分構成(全学)
4,280	2,890	1,162	96.8%	3.6倍	総合型 14%/指定校 26%/公募 18%/一般 42%

全学では96.8%だが、学部別は 経営108%/健康栄養102%/理工90%/国際72% と大きな格差。国際学部は5年で104%→72%に急落(留学プログラム縮小と重なる)。

教育成果(2025年度実績)

就職率(就職希望者比)	標準修業年限内卒業率	退学率(年間・全学年)	初年次退学率(全学)	同(学部別・2025年度入学者)
96.8%	83.2%	2.0%	3.5%	経営3.9%/国際6.8%/理工2.8%/健康栄養1.2(%)

全学の数値はどれも「平穩」だが、学部別に割ると国際学部の退学率は全学平均の約2倍。役員会への定例報告はこれまで全学サマリーのみだった。

求める学生像 アドミッション・ポリシー(全学)より抜粋

- 1. 各学部の学修に必要な基礎学力を身につけている人
- 2. 幅広い教養と専門性を身につけ、地域と世界で活躍する意欲のある人
- 3. 他者と協働して課題解決に取り組める人

上記の入学者を選抜するため、**全学部共通**の方針により多様な選抜を実施する。学部別のアドミッション・ポリシーは各学部の教育目標を書き換えたもので、求める学生像と選抜方法・測定指標の対応は全学共通の枠組みに委ねられている。

入試区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜	個別学力検査	個別学力検査(記述式)	調査書により総合的に評価
共通テスト利用	大学入学共通テスト	大学入学共通テスト	調査書により総合的に評価
公募制推薦	基礎学力検査	小論文	面接
指定校推薦	調査書(評定平均)	面接	面接・推薦書により総合的に評価
総合型選抜	調査書	志望理由書・課題レポート	面接

アセスメント・ポリシー 学修成果の測定・評価の方針(抜粋・全学)

本学は、**全学部共通**の基礎学力基準および学修行動指標を設定し、全学的に測定・比較することで教育の質を保証する。

レベル	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
機関(全学)	各種入学者選抜、全学共通プレイスメントテスト(全学部同一問題・同一基準)、全学共通の学修行動調査	初年次GPA(全学共通基準)、初年次退学率(全学集計)	卒業率、就職率(全学集計)
教育課程(学部)	全学の枠組みによる	全学の枠組みによる	全学の枠組みによる
科目	—	成績評価、授業アンケート	—

※学部固有の資質・能力に関する測定指標は各学部において別途定めるものとするが、現在まで設定されていない(例: 国際学部の英語運用能力、理工学部の数学到達度)。測定結果は全学サマリーを役員会に、全学平均値の経年比較を全学FD研修会に報告する。

学内の声 教学マネジメント委員会での発言メモ

国際学部長 「全学共通テストでは、うちの学生の英語力の二極化がまったく見えない。英検2級で入ってきた学生と、be動詞から怪しい学生が同じ教室にいる」

IR室長 「全学平均では何も起きていないように見える。学部別に割って出すと、役員会が騒然となる数字が出てくるのだが.....」

経営学部教務委員 「充足はしているが、第一志望でない入学者のGPAが明らかに沈んでいる。全学指標では拾えない」